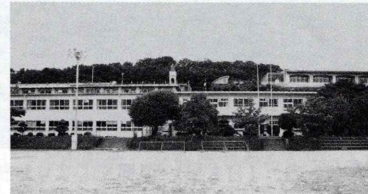


北辰

TOKYO



岐阜県立多治見北高等学校同窓会
東京支部会報 第25号
2011年10月2日

母校とふるさとを語り合いましょう！

多治見北高等学校同窓会東京支部 会長 山本 康夫（7回生）

多治見北高同窓会東京支部のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて今年3月11日以降を「戦後」ならぬ「震後」と呼ぶようです。また、作家五木寛之氏は、「これからの20～30年を、後世の人は放射能時代と名づけるであろう。」と言っています。

われわれは、かつて経験したことがない暗闇に足を踏み入れた感すらあります。何をよりどころにこれから生きていけばいいのでしょうか。その答えを、震災・原発被害者の方々が示してくださっていると思います。

すなわち、「地域の結びつき」と「友達との輪」です。日本人はこのところやや表層的になってきたきらいがあります。これを機に、「地域社会そして人と人との絆を大切に、1日々々を真摯に生きる」という本来の姿勢に立ち戻るべきではないでしょうか。その意味で、同窓会の存在はこれまで以上に重要です。多くの同窓生が集い、「母校とふるさとを語り合う」ことで、どんな時代になろうとも明るく前向きに生きていくよりどころを再確認したいものです。

1. 第21回総会・懇親会

昨年の総会・懇親会は20名近い初参加者を迎え、出席者総数が5年ぶりに100名を超える盛況でした。

鈴木初代会長（1回生）の乾杯で始まった懇親会は、会場の各所で談笑の輪が絶えず、出席された皆様には同窓会の魅力を堪能していただけたのではと思います。

2. 第22回総会・懇親会

今年の総会・懇親会を、11月19日（土）昭和女子大本部館会

議室で開催します。

来賓として、鈴木校長先生、恩師の先生方、同窓会本部と関西支部の代表、古川多治見市長（11回生）、加藤土岐市長（13回生）、さらに東濃会（多治見北、土岐商、瑞浪、恵那、恵那南、中津の同窓会交流会）の各校同窓会代表、をお迎えします。

また、フォーラム講師を中日新聞の小栗康之さん（22回生）につとめていただきます。みなさん、どうか友達をお誘いのうえご出席をお願いします。

詳しくは、本会報の「総会・懇親会のご案内」をご覧ください。

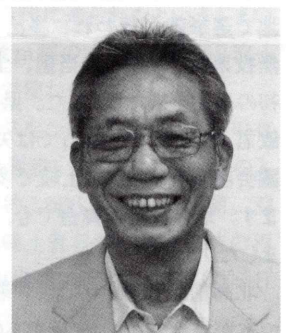
3. 懇親ゴルフ会

今年も秋に開催しますのでぜひご参加ください。女性・初心者大歓迎です。

4. 東濃会・東京岐阜県人会

今年6月、瑞浪高校首都圏同窓会と東京城陵祭（恵那中・恵那高の同窓会）に来賓として出席しました。今後も交流を深めてまいります。また、東京岐阜県人会総会（11月11日6時から、永田町の都市センターホテルで開催）では、アトラクションとして中津川の地歌舞伎が披露される予定です。ご都合がつく方には参加をお勧めいたします。

ではみなさん、11月19日昭和女子大に集合しましょう。そして母校とふるさと東濃を心ゆくまで語り合いましょう。



51 回生の卒業生を迎えました

多治見北高等学校同窓会 会長 酒井 忠造 (5 回生)



この度の東日本大震災からの、1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

日本の女子サッカー選手が世界を相手にひたむきにボールを追う姿は大変魅力的でした。スポーツ界での日本女子の活躍は、日本再生に大きな勇気を与えてくれます。

多治見北高同窓会東京支部会員の皆様方には、ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。

私たちの同窓会は今年度 51 回生の卒業生を同窓会に迎えることができました。1 回生はついに 70 歳になられますが、皆様まだまだお若く、ご活躍されています。

また、今年は統一地方選挙の年にあたり、当地方においても各地で選挙戦が行われ、多治見市長には、11 回生の古川雅典君が無投票で、2 期目の当選、土岐市では 13 回生の加藤靖也くんが初の当選を果たしました。県議会議員選挙は多治見市では山本勝敏君 (2 期目) 土岐市では矢島成剛君 (3 期目) が当選され、市議会議員も多治見・土岐で多数の北高出身の議員が当選しております。地方政治の舞台でも、北高出身者が活躍をする時代となりました。

北高創立 50 周年記念事業で建設された「北辰の杜」も少しずつ木が大きくなり、生徒たちの憩いの場となってきました。

今年度の同窓会本部の事業について、ご説明申し上げます。

1. 年一回の会報「北辰」の発行。今年で第 12 号となります。
2. 毎年継続して行われておりますが、北高卒業生による北高在校生への講演会実施。本年度の講師は株式会社カゴメ副社長の大嶽節洋君です。
3. 第 12 回親睦ゴルフ大会の実施

9 月 19 日 (敬老の日) (月) 法仙坊ゴルフ倶楽部、幹事 12 回生及び 22 回生で、参加者約百名の予定です。各学年対抗戦もあり、

例年大変盛り上がりします。同じ日 (敬老の日) 同じ場所で第六回目から続けてきております。

4. 「北高周辺環境美化と文化を味わう日」の開催

今年は、虎渓山永保寺の清掃と懇話会を 11 月 23 日 (勤労感謝の日) に開催します。永保寺境内の銀杏の木が陽に当たり黄金に輝くすばらしい季節です。昨年は試験的に役員の方を中心に呼びかけ、約 90 名の参加者を得ました。

虎渓山永保寺の本堂が今年竣工しましたのでそのタイミングで行います。

できれば、毎年 11 月 23 日 (勤労感謝の日) を北高同窓会の日として、固定化し、皆さんのそれぞれの同窓会を開く日とする提案はできないか、と考えております。先ずその足がかりとして企画いたしました。是非参加をお待ちしています。

最後に、昨年北高の同好会であった「プラスバンド」が部に昇格しました。楽器調達に苦勞しているとのことで、役員会において、「同窓会」も少し応援しようということになり、楽器調達費の一部を寄付することとしました。

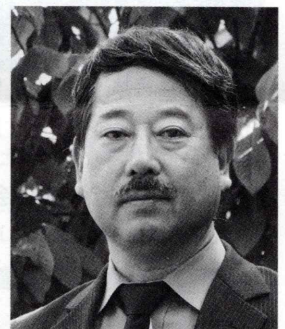
以上今年度の事業予定を申し上げます。何事も継続することが大事だと思います。東京支部の皆さんにも機会があったら是非参加していただきたいと思っております。

多治見北高同窓会の難点は財政基盤が脆弱であるということとあります。同窓会は皆様の協力金で成り立っております。どうか母校と同窓会へのご支援をよろしく願います。

最後に東日本の早い復興と東京支部の皆様のご活躍を心からお祈りいたします。

関西支部からごあいさつ

多治見北高等学校同窓会関西支部 会長 水野 尚之 (13 回生)



はじめまして、このたび関西支部会長を仰せつかりました水野尚之です。よろしくお願いいたします。初代会長の古川晃平先輩 (1 回生)、第二代会長の赤穂栄一先輩 (2 回生)、そして平成 13 年以來 10 年間にわたって第三代会長として支部をまとめてくださった吉田美喜夫先輩 (8 回生) の後を受けてのことですので、無事に務まるかどうか大変緊張しております。関西支部は、こうした歴代の会長をはじめとする先輩方のご努力により、今年 20 回目の総会を開くことができました。会員数も 220 名を数えるほどに拡大しております。

東京支部の総会へは吉田美喜夫前会長の代理として二度出席させていただきましたが、その人数の多さに圧倒されたことに加え、関西支部の総会との雰囲気の違いに驚きました。関西支部の総会は、関西の風土を反映してか、まったく感が漂っています。年一度

の総会および懇親会は、通常 6 月 2 日曜日に、お昼をはさんで開催されます。京都、大阪、神戸、奈良といった名だたる観光都市に位置する支部ですので、毎年の総会も様々な趣の場所で行なわれます。懇親会後は、ほろ酔い気分で付近の名勝を散策するのが恒例となっております。大人の幸福感といった雰囲気には満ちています。ここ数年の総会開催場所を見ても、京都東山の高台寺 (昨年)、京都嵐山の天龍寺 (一昨年)、奈良平城京跡「かんぼの宿」 (平成 20 年)、京都南禅寺「白河院」 (平成 19 年)、琵琶湖畔の「大津プリンスホテル」 (平成 16 年) と、散策に最適な場所が選ばれています。しばし日常を離れ、旧友、先輩、後輩、そして恩師の先生方と歓談し、故郷多治見に思いを馳せる、という同窓会ならではの醍醐味を味わ

える総会、懇親会です。東京支部の皆様も、そして多治見やその近くにお住まいの方々も、ぜひおいでいただきたいと思います。

今年度の総会は、6月12日(日)、関西屈指の海水浴場として有名な須磨海岸に面する国民宿舎「シーバル須磨」で行なわれました。あいにくの小雨模様でしたが、遠路にもかかわらず本部から酒井忠造同窓会会長と今井正史副会長、そして東京支部からは山本康夫会長、前原金一前支部会長のご出席を賜りました。また恩師の先生方としましては、鈴木康博多治見北校校長、水野数生同校教諭、そして斉藤誠同校元校長のご臨席を賜りました。どの方々も、ユーモアにあふれたご挨拶によって、関西支部の会員を激励してくださいました。私個人としましては、多治見北高3年生の時の担任をしてくださった斉藤誠先生から、メタボを直して健康管理に気をつけるようにとのお言葉を頂戴し、来年の総会までに10キロの減量を固く心に誓ったのでした。

東北の大震災から三ヶ月も経っていない中で、今年の総会・懇親会についても自粛の声が少なくありませんでしたが、何とか23名の出席者を得て開催することができました。関西支部ではここ数年40名ほどの出席がありましたので、来年度以降はまた賑やかな会に戻ることが期待されます。また、今年度の総会においても、

来賓のご挨拶、会計報告などの後、恒例の記念講演が行なわれました。今回は株式会社クボタに勤務される土本正明さん(13回生)が、「開発者として震災を受けて思うこと」と題して、福島原子力発電所の事故後の電力会社およびマスコミの対応の問題点を、鋭く指摘されました。土本正明さんと奥様の美智子さんは北高の同級生同士(!)ですが、昨年度から関西支部の事務局をご担当くださっています。

懇親会終了後は、名勝須磨の海を背景にして、斉藤誠先生ご寄贈の同窓会旗とともに、記念撮影を行ないました。



「自主・自律・自学」を礎として

岐阜県立多治見北高等学校 校長 鈴木 康博

はじめに平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、亡くなられた皆様に対し哀悼の意を表しますとともに、被災された東北関東地方各県の皆様方にお見舞いを申し上げます。本校では東日本大震災直後、いち早く生徒会から支援の声が上がり、生徒会が中心となり街頭での募金活動を行いました。生徒たちの意識の高さを感じました。今後とも生徒たちに何ができるのかを考えさせていきたいと思います。被災地が一日も早く復興されることを祈念しております。

多治見北高等学校同窓会東京支部同窓生の皆様には、ますますご活躍のことと心からお慶び申し上げます。日ごろは本校の教育に対して格別なご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。

私は、南谷清司校長の後任として今年4月着任しました。前任校は中津川工業高校で、出身は恵那市明智町です。生徒一人ひとりの確かな自己実現を図るために精一杯頑張る所存ですのでよろしくお願いいたします。

さて、本校は今年で創立54年目となり、平成20年の創立50周年を機に、「半世紀から一世紀」に向け、生徒一人ひとりの確かな自己実現を目指して、新たな歩みをはじめるところです。今春の卒業生たちは、確固たる目標をもって最後まで粘り強く頑張り、東京大学、名古屋大学をはじめとして各自の進路目標を実現しました。学習指導につきましては、毎日の65分の授業を柱として、わかる思考させる授業づくりに努めています。また、生徒の実態に即し一人ひとりの学力を伸長するために数学、理科で習熟度別指導を行ったり、難関校を目指す生徒のための早朝補習(北辰講座)、3年生を対象とした放課後補習、土曜講座など様々な学習の場を設定しています。また、多治見北高校サイエンスプロジェクト(TSP)として、地元にある岐阜県先端科学技術体験センターでの「DNA鑑定実験」や核融合科学研究所での「プラズマと電磁波に関わる体験実験」などをとおして、先端科学に触れさせる



東日本大震災募金活動(3/15)
震災直後に生徒会が動き出し、多治見駅で募金活動をした様子です。
2週間ほど取り組み、約120万円の募金を集めました。

ことにより理科に対する興味関心を高め、生徒の研究志向性を高める取り組みも行っています。

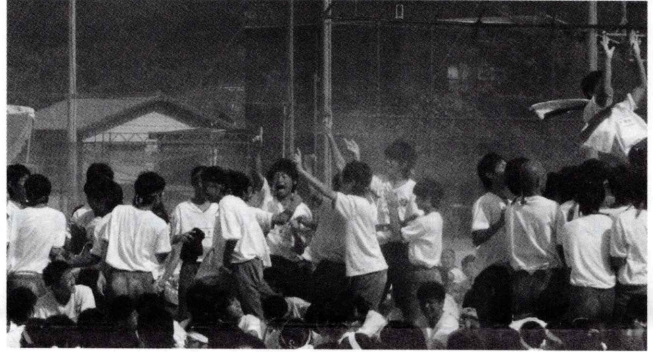
進路指導においては、生徒一人ひとりが望ましい進路実現ができるよう、3年間を見据えた体系的な本校独自の進路指導を進めています。特に、本年度は、キャリア教育に重点をおいたPTA主催の事業を実施しました。「プロフェッショナルセミナー」と称して、保護者の皆様などに講師となっただき、職業講話を拝聴しました。講師の皆様方の巧みな話術や工夫されたプレゼンに、生徒たちは聴き入っていました。

また、本校では文武両道の精神が受け継がれ、80%に近い生徒たちが部活動に加入して練習に励んでいます。本年度、硬式テニス部、ソフトテニス部が、東海高校総合体育大会出場。放送部が第58回NHK全国高校放送コンテスト出場。美術部生徒作品が全国高等学校総合文化祭デザイン部門へ県代表として出品。東濃地区総合体育大会においても各部とも上位入賞を果たしています。平成22年度、吹奏楽部が同好会から部へ昇格し、現在30人以下のB編成コンクール上位入賞を目指し頑張っています。この度、同窓生の皆様から楽器購入のための資金援助をしていただく

ことになり、有り難く御礼申し上げます。

同窓生の皆様が育んでこられた本校の伝統を守りながら、地域や保護者から寄せられる期待にも応え、校訓「自主・自律・自学」の精神を「礎」として、人間性においても、学力面においても生徒一人ひとりを伸ばし、諸先輩方の後継者として社会に貢献できる人材を育てることができそうです。教職員一同一丸となって努力する所存ですので、どうか倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

昨年の体育祭の結果発表の風景



もっと元気な多治見つくります

多治見市長 古川 雅典 (11 回生)

4月30日に多治見市長2期目を迎えました。

多治見市長1期目の4年間は、元気な多治見づくりの具体策として「中学校3年生の30人程度学級の実施」「山吹テクノパークへのトヨタ自動車(株)の世界の研修・施設の誘致」「市民病院の公設民営化と、平成24年6月完成予定の新市民病院建設着手」など、元気を送ってくださる関東地域でご活躍の多治見ゆかりの皆様のお力添えをいただきながら走ってきました。



多治見市長2期目は「もっと元気な多治見つくります」をスローガンに、『人こそ全て』、『財産である人財を大切に育てること』を最優先に取り組んでいます。

人間国宝を4人輩出した美濃陶芸、開山700年の虎渓山永保寺、開院80年の神言修道院など、多治見がいかにかに人を育てる文化の優位性に富んだまちであるかが分かります。企業誘致では、立地の優位性などの魅力に加えて、この人を育てる文化を強みとした市長自らによるトップセールスにより、短期間で高い成果を生むことができました。

併せて、笠原町上原地区と土岐市に跨る土地39haに、主にトヨタ自動車のシートやフィルターなどの部品を製造するトヨタ紡織(株)の多治見技術センターの誘致が決まりました。また、旭ヶ丘テクノパークも国内大手企業との交渉が大詰めで来ています。

子どもの教育では、岐阜県 No. 1 の教育環境はつくり出すことが

できました。お腹に赤ちゃんのいるお母さん、お父さんの育ちを支える「親育ち4・3・6・3」、幼・保・小・中それぞれに10分程度の短い時間に集中して脳の準備体操をする「脳トレ遊び」「脳活学習」など、多治見独自の取り組みの効果の高さを実感しています。また、障がいを持つ子どもへの高い効果も分かってきました。

多治見市民病院は、昨年4月から指定管理者制度へ移行し、いわゆる公設民営方式になりました。美濃加茂市の木沢記念病院に経営をお願いし、どれだけ手を尽くしてもできなかったドクターの確保ができるようになりました。また、新市民病院の建設も進めており、来年の6月のオープンを目指しています。東濃地域の2次医療機関として、その役割をしっかりと担い、安心と安全を提供する市民病院にします。

「人財」を育てることこそ、元気なまちをつくります。立派に育った鮭が大海から戻ってくるように、多治見で育った子ども達がまた多治見に戻ってきてくれるよう、しっかりとした教育と医療があり、そして働く場のあるまちにするために、これからもスピードと正確さを持って着実に歩みを進めてまいります。

日本の中心でご活躍の皆様には、なお一層に故郷多治見に元気を送ってくださいますよう、ご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。



トヨタ紡織との企業立地協定締結式
(2011/8/22、岐阜県庁にて)
左から、加藤靖也土岐市長、古川雅典多治見市長、

わがまち“土岐市”

土岐市長 加藤 靖也 (13 回生)



私は、多治見北高の13回生で、卒業したのは今から39年前です。かなりの年月がたちましたが、楽しい高校時代の思い出は今でも鮮明に記憶に残っています。土岐市の職員を32年間勤め、今は土岐市長ですが、当時は地方公務員、ましてや市長になるとはまったく考えていませんでした。

考えてみますと、高校時代、大学時代を通じ土岐市のことはまったく興味がなく、たぶん市役所に入らなければ、社会人になっても同様であったと思います。

皆さんに土岐市のことをほんのわずかでも知っていただこうと思い、少し紹介をさせていただきます。

市域面積は116.16km²、その約7割が丘陵地で占められています。市制施行は昭和30年2月、5町3村が合併し土岐市が誕生しました。多治見市、可児市、御嵩町、瑞浪市、豊田市、瀬戸市と市域が接しています。人口は現在約62,000人です。交通網としては、JR中央線、国道19号線、中央自動車道が本市の北部地域を東西に、国道363号が南部地域東西に走っています。南北の交通網があまり発達していない状況でありましたが、平成17年3月に東海環状自動車道東回りルートが開通し広域的な交通条件が飛躍的に向上しました。

その影響もありまして、土岐南多治見インターを含む地域の区画整理事業「土岐プラズマ・リサーチパーク」が平成17年2月に

街開きされ、同年3月にはアウトレットモールがオープンし年間450万人もの来客があり、県内外からも注目を集めています。

本市は、1300年以上の伝統を持つ全国屈指の陶磁器生産地であり、安土桃山時代に開花した織部、志野、黄瀬戸などの茶陶文化の発祥の地でもあります。また、産業の基軸は陶磁器産業であり、近年は安価な海外製品の輸入の増加などにより大変厳しい状況にありますが、その伝統を引き継ぎ、振興を図って行く必要があると考えています。

一方、東海環状自動車道の開通や地震に強い地域であることが認識され、プラズマ・リサーチパークや土岐アクアシルヴァ等への企業誘致も順調に進んでおり、今後も新規産業の誘致を積極的に推進してまいります。

私は、「強いまちづくり」「元気なまちづくり」「やさしいまちづくり」をテーマとして掲げ市政運営を推進しておりますが、とりわけ経済の活性化を図る「強いまちづくり」に力を入れていきたいと考えています。

終わりになりますが、いろいろな分野でご活躍の多治見北高卒業生の皆様のご支援ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

第21回総会・懇親会開催 100名を超える参加で盛大に

昨年、11月20日、昭和女子大学(三軒茶屋)において、多治見北高同窓会東京支部第21回総会・懇親会が開かれました。幹事回生の頑張りのおかげで、久々に参加者が100名を超えました。総会では、山本東京支部会長の挨拶のあと議事に移り、第20期活動報告および会計報告、監査報告、第21期活動計画および予算がそれぞれ承認されました。

フォーラムでは古川雅典多治見市長(11回生)が「多治見市の今後の展望」と題して講演されました。

懇親会では初めて参加した人も多く、各所で世代をこえた



交流が見られ、歓談に花が咲きました。また、同じ東濃の瑞浪高校、恵那高校の東京同窓会からも来賓としておいで頂き交流を深めました。



懇親ゴルフ会のご案内

当同窓会東京支部では、年に2回ほど懇親ゴルフ会を開催しています。本年の開催予定は未定ですが、スケジュールが合えば参加してもいいかも、とお考えの方はどうぞ連絡先(お名前とメールアドレス)をお知らせ下さい。設定し次第ご案内のメールを差し上げます。初心者からベテランまで、どうぞ同窓会ならではの気のおけないゴルフを楽しんでみてください。

連絡先: info_hokushin@tajimikita-tyo.com
幹事: 鈴木清二(13回生)

東日本大震災に 福島県いわき市で遭遇

土本 達也 (12 回生)

私は、平成 20 年 11 月 29 日に経済産業省を退職し、福島県いわき市にある IGCC という世界最高水準のクリーンな火力発電の研究をする株式会社クリーンコールパワー研究所の常務取締役として就任しました。これが、福島県いわき市での単身赴任生活のはじまりです。家族を埼玉県さいたま市の自宅に残したままです。

福島県いわき市は、近くにいわき湯本温泉があり、スパリゾートハワイアンズもあって温泉で癒されます。また、ゴルフ場も自宅から 20 分～30 分で 10 箇所以上あり、料金も東京の半分以下の格安料金です。ゴルフはやったことがなく人生初めて挑戦することになりました。さらに、いわき市は小名浜漁港があり新鮮な魚介類が豊富で格安です。

単身赴任で借りている戸建ての借家は、夏場もエアコンなしで涼しい風が部屋の中を通り過ぎます。地震もなく冬は温暖で夏は涼しいこんなどかな町を、3 月 11 日に突如大地震と津波そして原発事故が襲いました。いわき市は震度 6 強でした。会社は海岸から数十メートルと近いところにあり、事務所の窓からは毎日海を見ながら仕事していました。

この日は、午後 2 時 46 分の最初の揺れからどんどん揺れが大きくなり立ってられない状態になり、ロッカーは転倒し机の上のパソコンは落下、ロッカーの下敷きになりそうでした。揺れている時間が長く 4、5 分はあったと思います。その後、揺れは収まることもなく何度も余震がいやというほど頻繁に襲ってきました。

地震から 30 分後、目を疑うように人生で一度も経験をしたことがない大津波が近くの海から襲ってきました。当社は 3 階建てのビルで、私は 3 階にいましたが、一時は屋上に避難しました。目の前に大津波が襲ってきて自分はどこへ逃げればいいのかと恐怖を感じました。ほんとにわらをも掴む思いで救命胴衣があればなんとか助かるのと思ったくらいですが、残念ながらそんな救命胴衣の準備はありませんでした。会社の建物は、不幸中の幸いで、一階部分の会議室、展示ホールが大破し大きく穴が開いてそれが幸運にも 2 階、3 階のフロアーを倒壊させることなく、津波が通り過ぎて行きました。

会社の周りには、平屋などの民家がたくさんあり、その全てを津波がさらいました。会社の駐車場には社員が車を止めていましたが、全て流されました。完全に、会社は海の離れ小島と化し、孤立してしまいました。脱出不可能で、この日は 3 階の会議室に社員の一部 10 人と近隣の住民など避難してきた 9 人の合計 19 人で一夜を過ごすこととなりました。非常食等は津波で流されて役に立ちませんでした。少しの水と一人一個程度のあめ玉が食料です。停電しているので暖房は使えず寒いばかりです。懐中電灯のわずかばかりの明かりが恐怖を多少和らげていました。寝ている津波の余波の影響で何度も会社の建物に波が当たっていました。眠ることはできず生きた心地がしませんでした。これは、本当に現実なのか嘘だろう夢だろうと思いたいほどでした。

一夜明け、水も引いたので近くの 5 階建てビルに避難し、そこで

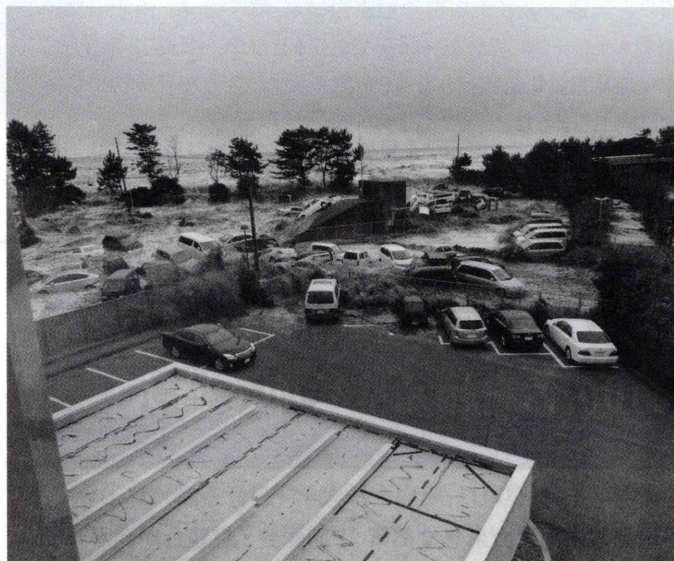
少しばかりのおにぎりや水を飲むことができました。思えば地震のあった日の昼休みは、近くの海岸でトレーニングしていました。その最中に大津波だったらもうこの世にいません。2 時間違いです。余震は、4 月 11 日と 4 月 12 日にもあり震度 6 弱の直下型地震でした。その地震の恐怖は、3 月 11 日を凌ぐものでした。天井や床が落ちそうな激しい上下動の衝撃で、押しつぶされるのではないかと恐怖に襲われ、もう本当にこれ以上苦しめないでほしいと思いました。

人生危険な経験をしないほうがいいのですが、地下鉄サリン事件の際にもちょうど地下鉄に乗って霞ヶ関の経済産業省に勤務に行く途中、事件が起きていました。これも 1 時間違いで命拾いでした。

今回の東日本大震災は、マグニチュード 9.0 で 500 キロメートル以上にわたる 3 つのプレートが動いた地震でしたが、本当に 1000 年に 1 度の地震でしょうね。ありえないことが起きていました。地震、津波、原発事故と三重苦の中、福島県は早期に復興しようとしています。

当社の 25 万キロワットが発電できる JGCC も、7 月中旬に復旧し電力不足に貢献しております。

最後になりましたが、東北地方をはじめとした被災地域が早く元気に復興できることを祈るばかりです。



津波が襲ってくる最初で事務所 3 階から撮影したものです。



津波が襲ってすべての車が流された状況です。
奥の方に、IGCC 実証機が

東日本復興支援チャリティコンサート Sharing 2011 In Tama.

5月21日、多摩センターの「パルテノン多摩」で東日本復興チャリティコンサート「Sharing 2011 In Tama.」が行われ、声優、真山亜子さん（17回生 川人康代さん）が出演しました。

文化放送のバンブー竹内氏の司会で、出演はご自身でもいち早く支援活動をされている清水国明氏、湘南のミュージシャン、テミヤン氏、シンガー水越けいこさん、真山亜子&染井みゆきさん、フォークバンド・マイペースの三人など懐かしい顔ぶれでした。清水国明氏からは被災地支援活動の様子がシェアされました。

真山亜子さんは、宮沢賢治の「アメニモマケズ」を朗読。最後の「そんな人にわたしはなりたい」というフレーズに亜子さんの被災地への思いが力強く響きました。



左から司会のバンブー竹内氏、真山亜子さん、清水国明さん。

アウトドアで楽しい交流深めています

私たち3回生は1944～45年（昭和19～20年）生まれで今年67歳。永年の拘束から解放された人も多くなり、同期会の呼びかけ回数もそれに応じる人数も増えて来ました。平均年3回、毎回10名前後の集まりですが、年齢の自覚もありコンセプトは“健康志向”。夜の飲食会は極力避け、ウォーキングによる近郊名所旧跡巡りや日帰りハイキングなど昼間の活動に力を入れています。今年4月に計画していた佐倉の「歴博見学とお花見旧跡巡り」は大震災直後であったためやむなく中止しましたが、秋には別な企画で集まる予定です。

この2年程で特に思い出深かった活動を3つご披露しましょう。まずは「2009.4.26 高尾山ハイキング」です。前日の関東地方は夜遅くまで雨で、中止やむなしと諦めかけたのですが、粘り強く天気予報を追跡していたベテラン登山家愛知征四郎君の「明日は晴れる！」のひと言で実施を決断。翌朝本当に雨は上がりよい天気。ご夫婦参加も2組あり、体力面の理由でケーブルカー利用を選んだ1組も含め高尾山口から全員元気よく登山を開始。登山家幹事

の後を追い、心臓バクバク足ガクガクの半老体にムチを打ち、山の新鮮な空気と緑の中を約2時間頑張り遂に山頂に到着。絶景に見とれ、おむすびを頬張っての楽しいひと時でした。

2つ目は「2009.9.12～13 さんしょう小町会東京名所巡り」。幹事は女子栄養大学教授の金田雅代さん。全3回生女子部会である「さんしょう小町会」を東京でやろうという企画で、多治見方面からの女性9名を関東在住の男女9名がホスト&ホステス役で迎え、東京の名所を2日かけて案内し親睦を深めるという趣旨のものでした。初日はカレッタ汐留 46階展望レストランでの歓迎ランチをスタートに、浜離宮恩賜庭園での抹茶と散策、六本木ヒルズ 52階展望フロアからの夜景を堪能した後、東京プリンスホテルのバイキングでお腹を満ちし、宿泊先の銀座キャピタルホテルへ。翌日は銀座周辺でショッピングとランチを楽しんだ後、巣鴨のとげぬき地蔵、文京区の（鳩山）音羽御殿などを巡りました。

3つ目は「2010.4.3 羽村堰お花見と名所旧跡巡り」です。幹事は羽村市議会議長を務める水野義裕君。最初に訪れた旧跡は羽村駅近く、五ノ神社境内にある鎌倉時代に造られたという「まいまいず井戸」。地面を直径約20m深さ数m程のすり鉢状に削り取った穴底に掘られた井戸で1960年頃まで使われていたとか。

皆で緑の螺旋道を下って水汲みコースをたどった後は、近くの有名店でお蕎麦を食べ、そこから20分程歩いて目的の羽村堰の入口に到着。堤防沿いは桜祭り会場で約1,000本の桜が満開。羽村堰の構造と取水量に感心した後は郷土資料館へ回り当時の再現模型を見たり解説を読み玉川兄弟の偉業に改めて感動した一日でした。



私の出版物

『ヒマツブシムの推理』 著者：中嶋正人（1回生）
文芸社（2011年6月15日発行） 1400円+税

【著者の弁】

定年後の人生は「毎日が日曜」。人生あとは暇つぶし。私の体内のヒマツブシムは活性化し、自然と遊ぶのが楽しい。自然を相手にして、ふと世の中を振りかえると、「なんか変だぞ」と思うことが一杯ある。そんなことをあれこれ書き連ねた随筆集です。

自費出版で少数数の発行です。ご面倒ですが、セブンネットショッピングやクロネコヤマトのブックサービスなどで取り寄せいただくか、書店でご注文いただくかして読んでください。



第22回東京支部総会・懇親会のご案内

会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素から支部運営にご協力いただき厚く御礼申し上げます。本年は東日本大震災が有り多くの方が亡くなりました。心よりお悔やみ申し上げます。会員の親戚やお知り合いで被災された方もいらっしゃるかと思います。心よりご同情申し上げます。

さて、本年も東京支部総会および懇親会を下記の通り開催する運びとなりました。ご多用中のことは存じますが、是非本総会にご参加いただき、関東地区での交友関係を拓ける場として積極的にご活用いただければ幸いです。

多治見北高同窓会東京支部総会実行委員会（2、12、22、32回生）

記

日時：平成23年11月19日（土曜日） 午後2時～6時30分（1時30分開場）

会場：昭和女子大学 本部館3階 電話 03(3411)5244（内線 1301）（当日のみ）
世田谷区太子堂1-7（最寄り駅三軒茶屋）※なお、会場までの道筋は下記案内図をご覧ください。
総会・フォーラム：中会議室 懇親会：大会議室

<プログラム>

- ・総会：午後2：00～2：30（於：中会議室） 活動報告、事業計画他
- ・フォーラム：午後2：30～3：30（於：中会議室） 講師：小栗康之氏（22回生）

講師プロフィール：【おぐり・やすゆき】 1963年生まれ。精華小学校、陶都中学校、多治見北高校、慶応義塾大学文学部国文科卒。87年中日新聞社入社。豊橋支局勤務後、91年政治部。首相永田（首相官邸）クラブ、平河（自民党）クラブ、霞（外務省）クラブ各キャップなどを歴任。2005年～08年ワシントン支局。現在、政治部次長。

演題：「政治部記者はなぜ忌み嫌われるのかー政治報道の現状と今後」

政治報道に対する国民の視線は厳しい。政治記者として現場に携わっていて悔しいほどでもある。政治の現状に対して国民は強い不満を抱くと同時に政治報道に対しても不信感を持つようになってきている。政治報道の現状と問題点を考える。加えて、中日新聞社（東京新聞）が取り組む「新しい政治報道」の在り方について報告する。

- ・懇親会：午後4：00～6：30（於：大会議室）
- ・懇親会費：29回生まで6000円
30回生以降3000円
学生1000円（新卒業生は無料）

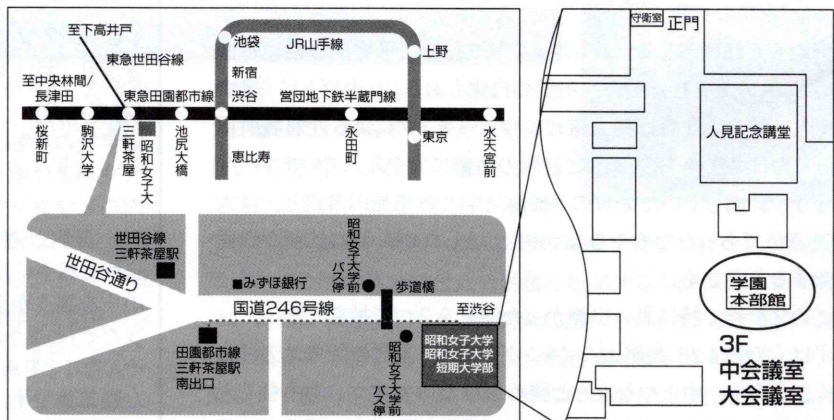


- ・年会費：一般2000円 学生0円
- ・ご家族のご同伴もOKです。
ご同伴の方の懇親会費として、別途お一人様3000円を頂戴致します。
（小学生以下のお子様は無料）

- ・現段階で参加をご予定いただいている恩師
松田嘉久先生、石井新太郎先生、
藤滝慎一先生、渡辺謙太郎先生
（順不同）



会場へのアクセス



編集委員 原田英明（12回生）

<ホームページアドレス> <http://www.tajimikita-tyo.com/> <メールアドレス> info_hokushin@tajimikita-tyo.com